

1 教科名 英語科

2 単元名 Career Day

3 タブレットの使用方法（どれかに○をつける）

教員1台の使用

グループ1台の使用

生徒1人1台の使用

4 単元計画

時数	内 容
第1時	不定詞「副詞的用法」
第2時	不定詞「名詞的用法」
第3時 本時	不定詞「形容詞的用法」
第4時	Starting Out
第5時	Dialog
第6時	Read & Think 1
第7時	Read & Think 2
第8時	Activity 1
第9時	Activity 2
第10時	Daily Scene 3
第11時	単元テスト

5 本時

(1) 本時のねらい

不定詞「to＋動詞の原形」の形容詞的用法（～すべき・～するための）を用いて、正しい文を書く（外国語表現の能力…正確な表現）

(2) 本時の展開

学習の流れ	主な学習活動	指導のポイント（タブレット端末活用）
導入	前時の復習をする。 不定詞「名詞的用法」用いて将来就きたい職業をインタビューする。	コラボノートにインタビュー結果を貼っていく。
展開	不定詞「形容詞的用法」の文法を学習する。 基本練習を解く。	デジタル教科書を使用して基本練習を提示する。
まとめ	振り返りシートを記入し、提出する。	

タブレット端末活用のポイント（効果・生徒の反応）

① 課題への取り組み時間の明確化
＜活用した機能＞（タイマー）

課題を提示してから次の課題までの時間を視覚化してすることで生徒は時間を意識して課題に取り組んでいた。また課題途中で終了時間になった場合も区切をつけて手を止めることができている生徒が多いと感じられた。



② 学習内容の提示

＜活用した機能＞（提示機能）

デジタル教科書で該当ページを常に表示させて置くことで、生徒が「今どこを学習しているか」がわかる。教師の文法説明では書き加えや変更が容易な黒板を使用している。大部分の生徒は教師の説明にペースが追い付いているが、少し遅れた生徒が自分でIWBを見て追いつくことができる。



③ 生徒間での作文共有

＜活用した機能＞（協働学習支援ソフト）

文法に則り、生徒が自分のなりたいものを英文で表現する課題であるが、「どんなものになりたいか」という内容とその表現が文法上正しいか、という2点を共有することができていた。「誰が書き込んだのか」ということが表面上は表示されないため、生徒の作った文章をもとに全体学習ができる。

実践を振り返って（こんな場面でも活用できる）

生徒は教師の指示通りにログオンしたり、ソフトを立ち上げたりと基本的な操作スキルを持っている。しかし、生徒が入力作業を行っている時間に出た質問や、教師からの説明については手を止めて注目することはなく、両立しないことが確認できた。また共有という観点ではタブレット使用は強みを発揮するが、一文を書くのに要する時間は長く、紙面で類題を2、3文かける時間で入力を終えている。これらのことからタブレット使用時は盛り沢山の展開にせず、明確に目的を絞りそれだけに集中させる授業展開が有効ではないかと思われる。

本時のなりたい職業を作文する場面で、職業人の写真と単語を画像でフラッシュ表示していくなどするとイメージがわからない生徒、書きたいが単語がまるっきり思い浮かばない生徒などに対して意欲喚起できるのではと感じた。